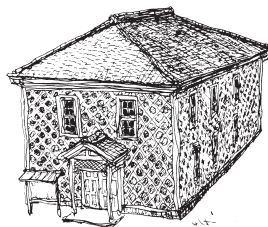


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デイベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。
三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

●看護医療学部長

ながたさとこ
永田智子

変化への挑戦と価値の継承

看護医療学部 開設25周年に寄せて

新緑がまぶしく花々の彩りが楽しみな季節となりました。この春から慶應義塾の一員となった皆さまには心より歓迎申し上げます。

本年、看護医療学部は開設25周年を迎えます。慶應義塾における看護教育は、1918年に初代医学部長であった北里柴三郎博士が看護婦養成所を設置したことから始まります。その後、厚生女子学院、慶應義塾看護短期大学と改組され、2001年に慶應義塾の9番目の学部として看護医療学部が誕生しました。

先日は25周年記念誌の企画として、教員と卒業生が集まる座談会が行われました。その席で話題になったのは「変化と継承」でした。慶應義塾の根幹である、自我作古・半学半教といった精神、そして人々の健康と幸せのために貢献するという看護医療の基本は、25年前に本学部で学んだ卒業生の胸にも深く刻まれており、現在もそして25年後も変わることなく継承すべき価値であることが確認されました。一方で、医療技術や情報技術の進歩、高齢化の進行やグローバル化といった社会情勢の変化

のスピードは速く、それを受けた看護医療に対する社会の期待も変化しています。継承すべき価値を守りながらこれらの変化に対応するには、どのような教育・研究が必要か、熱い議論が交わされました。AIやシミュレーション機器の進歩により、教育も臨床も新たな方向に発展することが期待されますが、それと同時に、より生身の人間同士のコミュニケーションや倫理観が重要となり、人間性の涵養^{かんよう}という点でも教育を見直す必要があることを、あらためて認識する機会となりました。

毎春芽吹く新緑も咲く花も、昔から変わらずそこにある樹木の一部であり、環境の変化に適応し成長しながら、新たな姿を見せてくれます。慶應義塾という学び舎も、そこに集う人々も年々入れ替わり、また時代の変化に適応しながら新たな挑戦を続けていますが、それこそが慶應義塾の精神を守り、志を貫くことにつながるのだと、あらためて実感しました。看護医療学部も、社中協力のもとで、次の四半世紀に向けた挑戦を進めていきたいと思っています。